

NIEワークシート中～高校

空襲の手記

論説委員 松岡 健

日々小論



「空襲のあとは、空がかき曇って、不気味な風が吹く。焦土にはまだ余燼^{よじん}がくすぶっていた。^①国破れて山河は在るが、町のすがたはない」。1945（昭和20）年6月5日の神戸大空襲について、作家の陳舜臣さんはこう記した。「見渡すかぎり一面に平たくなった瓦礫^{がれき}の荒野である。：骨組みだけの鉄筋建造物の残骸は、まるで神戸の滅亡に念を押すかのようだった」

空襲についての手記は数多く残されているが、そのいずれもが戦禍を知るよすがになる。^②

神戸の大空襲は同年3月17日にもあった。後に神戸新聞の論説委員長などを務めた畑専一郎さんはその日の日記に「方角をかえて脱出を試みるが、みな焰^ほと煙で駄目だ。不安ようやく募る。烈風の天を渡る音、不気味に耳につんざき、火の粉はあられのようにふる」と書いた。

この空襲で小社も社屋を失っ

左の記事を読んで、下の問いに答えましょう。

1 傍線部①は、中国の詩人杜甫の詩の一節「国破れて山河在り」から取っています。詩の題名を書きましょう。

2 傍線部②の意味を、次の中から1つ選び、記号で書きましょう。

- ㊦材料 ㊧手がかり
㊨過去のなごり ㊩記録

3 新聞には傍線部③のように書いたが、実際はどうでしたか。本文中から1文で抜き出し、最初の3文字を書きましょう。

--	--	--

4 傍線部④について、戦時中、事実を伝えなかった新聞は、戦後反省し、世の中の出来事を速く、正しく、わかりやすく伝え、国民の「知る権利」を守っています。新聞が二度とウソを書かないためには、どうしたらよいと考えますか。あなたの考えを書きましょう。

た。新聞社が空襲で全焼したのはこれが最初で、朝日新聞の協力で翌日の新聞を発行した。見出しは「^③火焰の中に毅然・港都市民 夜爆のB29六十機 屠る殆ど全機 軍官民一体の敢闘」。勇ましく、日記から読み取れる印象とは全く違う。大本営発表は約60機だったが、米軍側の資料では約300機。損失は「ほとんど全機」どころか、^④わずか3機だったという。

事実を伝えなかった紙面は取り消すことができない。小社の社史は「降り注ぐ焼夷弾^{しょういうだん}の火の雨に打たれ、逃げ回った市民には、新聞はウソばかり書いている、と思えたに違いない」と反省を記した。畑さんは戦後、市民団体・神戸空襲を記録する会の代表世話人になった。

市民の視点で戦争の事実を書く。手記を後世に引き継ぐ。その作業は、戦後80年を過ぎても続けていかなければと思う。

NIEワークシートのこたえ（2025年6月5日公開）

◆ワークシート「戦時中の新聞のウソ(国語)」 2025.6.4付 朝刊 9面 解答

- 1 春望
- 2 ①
- 3 大本営
- 4 あくまで事実を追求し、客観的な情報を提供する
政治などに忖度しないよう、取材対象から独立する
あらゆる勢力からの干渉を排除する
多様な意見を掲載する など